

行政視察報告書

所属委員会 または会派名	新政すわ、議長	参加者 氏 名	新政すわ 藤森靖明、吉澤美樹郎、牛山実弦、 小山博子、伊藤浩平 議 長 牛山正										
行政視察名称	令和7年度 諏訪市議会 新政すわ行政視察												
視察期間	令和7年7月17日（木） 1日間												
視察都市名	長野県諏訪市（株式会社共進、株式会社小松精機工作所）												
1.株式会社共進を視察した目的													
諏訪市のものづくりの現場で今起きていることを確認し、企業の声を行政へ届けられるようにするため。													
2.視察地の概要													
企業名	株式会社共進	資本金	3,000 万円	住所	長野県諏訪市中洲 4650								
代表者	代表取締役 五味武嗣	設立	昭和 37 年	事業内容	金属製品の製造販売								
3.視察内容													
●五味社長より、会社概要について説明を受ける。 ・ISO9001、14001等の認証を取得する中で、IATF16949を2016年に所得したことが会社にとって大きくプラスとなっている。 ・カンメ接合の採用品は2019年総出荷実績が約1,000万個、自動車業界や医療業界での各部位に適した加工方法適用が可能であり、採用実績がある。 ・カンメ接合は切削を最小限に抑え、廃棄物を削減し、SDGsにも貢献できる。 ●製造現場を視察する際、五味社長より説明を受けたが、製造現場は非常に明るく、清掃が行き届いており、5Sが徹底していた。また、社員の皆さんの挨拶も心地よかった。 ●現場視察の後、事前にご連絡した質問に答えて頂いたが、中でも印象に残ったのは以下の通り。 ・健康優良法人認証取得など職場環境改善に努力してきた甲斐もあり、直近では人材確保、若手社員の確保はできている。ここ数年の新卒人材の離職率は、0%。従業員の有給休暇消化率は80%。 ・諏訪圏工業メッセでは多くの企業が部品を並べており、完成品の展示は少ない状況。しかし、中長期的に見ると部品製造だけでは食べていけないと危機感を持っている。 ・そのため、自社製品（完成品）、いわゆる自分たちで売れるモノを作っていきたい。行政には補助金だけでなく、販路開拓や市場調査に精通し、販売先まで助言してくれるコーディネーターの派遣をしてもらえたらうれしい。 ・国・県・市と様々な支援メニューはあるが、自社の現状に合致した支援メニューの情報入手が難しい。 ・精密業界、諏訪地域全体の底上げが急務。													
													

1.株式会社小松精機工作所を視察した目的					
諏訪市のものづくりの現場で今起きていることを確認し、企業の声を行政へ届けられるようにするため。					
2.視察地の概要					
企業名	株式会社小松精機工作所	資本金	9,750 万円	住所	長野県諏訪市四賀 942-2
代表者	代表取締役 小松滋	設立	昭和 28 年	事業内容	各種精密機械部品製造
3.視察内容					
●小松社長他、3名の役員より、会社概要について説明を受ける。 ・製造現場を視察する際、小松社長より説明を受けたが、現場での、微細加工技術、検査工程の緻密さは目を見張るものがあり、大変驚いた。 ●高校生の職業体験は精力的に受け入れているとのこと。たまたま視察当日も岡谷工業高校2年生が実技体験をしていた。 ●現場視察の後、事前にご連絡した質問に答えて頂いたが、中でも印象に残ったのは以下の通り。 ・nanoSUS®などの材料や加工法の研究は、最初から自社だけで行っていたわけではなく、元々は商工会議所が行ったSTX21グループ研究から始まり、事業終了後も独自に研鑽を続け、自走化した。 ・新設した共同研究施設「K-Lab」は同じビジョンを持てる他社の方々と一緒に研究し、新しい事業を生み出すことを目的に建てた。 ・課題としては、自社建屋が老朽化しつつあるが、市内に建てる場所がないこと。 ・理系の大学生の人財確保に苦慮している、大手に人財を抱え込まれてしまっている現状。また、高卒人財は3～5年程度で一定数が転職してしまう。 ・トランプ関税の影響については、日々情勢が変わっており、現時点では未確定、視界不良である。 ・賃上げについては理解しているし、必要である。そのためには、労務費の価格転嫁は必要で、顧客に理解してもらう必要がある。 ・安定的に人財確保するために、会社の魅力をどう伝えればよいか悩んでいる。遠方から就職してくれる学生を呼べるようにアパートの家賃補助あるいは、空き家を活用した借上げ社宅を用意する必要性を感じている。 ・お金以外の魅力も求められていると感じる。「やりがい」「達成感」福利厚生の実施など様々に考えていく必要がある。 ・「魅せる工場見学」成果物の自社紹介マンガは、小中学生のみならず、高校生や大学生向けにも好評。 ・技術の継承について、専属の先生および道場が必要と感じている。日々の生産に追われ、育てるのが難しい。 ・諏訪地域は微細加工を行う製造業が集積しており、地域内に拠点を構える他社はライバルであると同時に切磋琢磨できる仲間でもある。 ・「MADE IN SUWA」として地域内で完結するものづくりを行うには、誰が旗振りをするのか課題である。 ・諏訪地域は、かつて「東洋のスイス」と呼ばれた特別な地域。特別な地域であるが故に、ブランド力強化をし続けていくため、行政には発信を続けてほしい。 ・教育（技術習得）の機会も連携して実施してほしい。共同で使用できる、技能習熟用の製造機械が置いてあるような場所があれば社外で他社と共同で教育が実施できる。 ・社員の中にはもっと勉強したいという声もあり、人財を呼び込める補助金（自社に外部講師を招くための費用の補助等）があればありがたい。					



4.会派としての所感及び諏訪市に反映できると思われる点

今回の視察を通じて、諏訪地域の製造業が誇る高い技術力と、ものづくりにかける情熱をあらためて実感する機会となった。

株式会社共進 五味社長からは、ISO9001・14001に加え、IATF16949の認証取得が企業の信頼性と製品品質向上に寄与していること、また環境に配慮したカシメ接合の技術がSDGsの観点からも優れていることをご説明いただいた。製造現場は5Sが徹底され、社員の皆さんの挨拶も清々しく、社内の雰囲気の良いと感じた。一方で、工場建屋の老朽化、人材の定着、完成品開発への支援、トランプ関税の影響など、経営面での課題も共有いただいた。特にBtoCへの転換に向けては、補助金に留まらない販路開拓等のコーディネーター支援の必要性が強調されていた。

株式会社小松精機工作所では、精密加工の製造現場における知見の積み重ねと検査水準の高さに驚かされた。また、K-Labによる他社との共同研究の取組や、高校生の職業体験受け入れなど、地域に開かれた企業姿勢も評価されるものである。nanoSUS®等の自社開発体制の立ち上げの背景に商工会議所との連携があったことも、産学官の連携の重要性を再認識させられた点である。人財確保については、理系人財の都市部流出や高卒入社の若手就労者の短期間での離職といった課題に直面しており、住居支援やキャリア形成支援、魅せる工場見学を活用した魅力発信、リスクリングの機会提供など、多角的なアプローチが求められている。また、「東洋のスイス」と呼ばれた諏訪のブランド力を継続的に発信し続けてほしいとの声もあり、行政の果たすべき役割は大きいと感じた。

両社ともに、5Sや現場管理が徹底され、社員の育成・モチベーション向上へのたゆまぬ努力が見られたと同時に、「個社の努力だけでは解決できない地域課題」が顕在化していた。視察を通じて、我々議員（会派）としても、企業と行政、教育機関をつなぐハブとして何ができるかを考えさせられる重要な機会となった。